

ここで、「自らの命は自らが守る」ということでどんなことができるのかといったところを、特定非営利活動法人(NPO)ウィミィで地域防災活動をしている(代表理事)出口いつ子さんにお話を伺いました。

取 材：地域防災活動をしていると伺いましたが、実際どのような活動をしていますか？

出口さん：ウィミィというNPO組織で、“地域の方々との助け合いのネットワーク”を精神に防災体験や、研修会などを開いています。たとえばいざという時のために自分たちでできる防災用品を作ったり、地域のお寺などで防災の話をしたりしています。

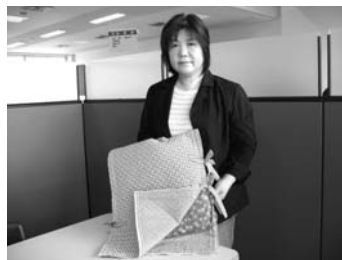
取 材：さきほどから大きな袋が気になるのですが…。

出口さん：これは、防災頭巾なんです。枕カバーや座布団カバーとしても使えるんですよ。このように自分たちで、しかも自分たちの身近にあるもので作れ、もしものときに自分の身を守ることができるんです。

取 材：わざわざどこかに防災用品を置くのではなく、生活の中で手にとりやすいところに置いておくということなんですね。

出口さん：そうなんです。もしものときってあわててしまいますよね。そんなときに少しでも手助けになるものが手元にあると心強いですよ。このように自分たちでできる防災を考えていくというのが私たちの活動の目的なんです。

取 材：“自分たちでできることは自分たちです”これって大事なことですね。出口さんたちの活動をこれからも期待しています。ありがとうございました。



手作りの防災頭巾を手に…(出口いつ子さん)

※出口さんたちの活動に興味のある方、講習会を開いてほしいという方は、員弁庁舎総務課に連絡をください。

飲料水を確保!!

出口さんに役立つ防災用品(ペットボトルを使う水のろ過装置)の作り方を教えてくださいました。

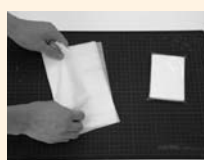
出口さん：身近にある材料で簡単に作れます。いざという時のために覚えておくといいですね。

準備するもの

風呂の残り湯等
ペットボトル
ティッシュペーパー
カッター
またはハサミ



カッターまたはハサミでペットボトルの上部1/3のところを切る



ティッシュを4枚ほど重ね、5つ折りにし、渦巻状に巻き、ペットボトルの口にきついくらいに詰め込む



分割した胴体にティッシュを詰めた口を下にして立て、風呂の残り湯などを注ぐ



水を入れるとすぐに、ティッシュのフィルターを通過し、ろ過されたきれいな水が滴下する

※煮沸してから飲用としてください

最後に

豪雨が続き平常時と異なる状況になると誰も不安になります。それでも、以前に大きな被害が出ていないから今回も大丈夫だろうと思い、自分の判断や行動を正当化してしまいます。しかし、いつその災害に直面することになるかもしれません。普段から、自分でできる範囲で、災害への準備や地域や隣近所の方との助け合いをしっかりと行い、災害に備えていただきたいと思います。